

陸連時報 三

2016
平成28年

6 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

| | |
|---|-----|
| 第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)マラソン日本代表選手メッセージ…………… | 198 |
| 強化関連情報…………… | 201 |
| 2016年度強化競技者・ディベロップメントアスリート研修会・専任コーチ会議報告 | |
| 第22回世界ハーフマラソン選手権大会報告(日本代表選手団監督 酒井勝充) | |
| 2016世界室内陸上競技選手権大会(アメリカ ポートランド)大会レポート(強化委員会フィールド統括 跳躍部部长 吉田孝久) | |
| ホクレン・ディスタンスチャレンジ2016大会要項…………… | 205 |
| 第3回 日本陸連栄養士の報告(医学委員・食育プロジェクト 田口素子) / 日本陸連栄養セミナー | |
| 2016 開催報告(普及育成委員・食育プロジェクトメンバー 大畑好美)…………… | 206 |
| JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会…………… | 208 |
| 第203回国際陸上競技連盟(IAAF)カウンスル会議報告(会長 横川浩)…………… | 209 |
| 大会観戦ガイド…………… | 210 |
| 陸協NEWS…………… | 212 |
| 事務局からのお知らせ…………… | 214 |

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)

2016.3.17.現在

マラソン日本代表選手

8月12日から21日までブラジル・リオデジャネイロで開催される第31回オリンピック競技大会の陸上競技。

マラソンの日本代表選手を紹介致します。

※成績記録は大会当時のもの

【マラソン男子3名】



佐々木 悟 (ささき・さとる)
旭化成・宮崎 1985/10/16 生
大仙市立南外中学校→秋田工業高校(秋田)→
大東文化大学→旭化成
選考大会成績：2015福岡国際マラソン 3位
(日本人1位) 2時間08分56秒
オリンピック出場回数：初出場
自己ベスト：2時間08分56秒(2015福岡国際マラソン)

主な実績：(8位以内と海外レース)

2014年 びわ湖毎日マラソン 2位

2014年 シカゴマラソン 17位

2015年 福岡国際マラソン 3位

<大会に向けての抱負>

オリンピック選考レースの福岡国際マラソンに向けて、課題克服のためそれまでとは違うことを少しずつですがやっけていき、何とかいい走りができたと思います。

福岡国際マラソン後も継続して課題をクリアできるようにトレーニングをしているのでリオに結びつけられるようにしていきたいです。

<種目の魅力>

レース中は給水、ペースアップ、位置取りなど各選手の性格がよくあらわれると思います。色々なタイプの選手がいるのでそこを注目してもらいたいです。



北島 寿典 (きたじま・ひさのり)
安川電機・福岡 1984/10/16 生
前橋市立第七中学校→群馬県立中央高校(群馬)→
東洋大学→安川電機
選考大会成績：2016びわ湖毎日マラソン 2位
(日本人1位) 2時間09分16秒
オリンピック出場回数：初登場
自己ベスト：2時間09分16秒
(2016びわ湖毎日マラソン)

主な実績：(8位以内と海外レース)

2015年 延岡西日本マラソン 1位

2015年 シドニーマラソン 1位

2016年 びわ湖毎日マラソン 2位

<大会に向けての抱負>

オリンピックの舞台で自己新記録を出すぐらいの気持ちを持って本番に臨みたいと思います。そのためにも、今までやってきたことに自信を持って、今やるべきことを一つ一つ積上げていきたいと思っています。

<種目の魅力>

走ること自体の楽しみ、自分自身の限界に挑戦する楽しみ、ゴールしたときの達成感という楽しみ、自分の目標を成し遂げる楽しみ、さらには、駆け引きなどのゲーム性の楽しさなど、マラソンひとつにはとても多くの魅力が詰まっています。





石川 末廣 (いしかわ・すえひろ)
 Honda・埼玉 1979/09/27 生
 天栄中学校→稲生高校(三重)→東洋大学→ホンダ(現Honda)
選考大会成績: 2016びわ湖毎日マラソン 4位
 (日本人2位) 2時間09分25秒
オリンピック出場回数: 初出場
自己ベスト: 2時間09分10秒
 (2013びわ湖毎日マラソン)

主な実績: (8位以内と海外レース)

- 2012年 ベルリンマラソン 11位
- 2013年 びわ湖毎日マラソン 6位
- 2013年 ベルリンマラソン 7位
- 2016年 びわ湖毎日マラソン 4位

<大会に向けての抱負>

日本代表としての誇りを持ち、自分の持ち味である粘りの走りをして入賞目指します。

<種目の魅力>

完走した後の達成感です。凄い気持ちいいですし、自信にも繋がります。初心者の方もぜひ挑戦してみてください。



【マラソン女子3名】



伊藤 舞 (いとう・まい)
 大塚製薬・徳島 1984/05/23 生
 平城東中学校→京都橘高校(京都)→京都産業大学→デンソー→大塚製薬
選考大会成績: 2015世界選手権 7位
 (日本人1位) 2時間29分48秒
オリンピック出場回数: 初出場
自己ベスト: 2時間24分42秒
 (2015名古屋ウィメンズマラソン)

主な実績: (8位以内と海外レース)

- 2012年 名古屋ウィメンズマラソン 5位
- 2012年 横浜国際女子マラソン 5位
- 2013年 ロンドンマラソン 7位
- 2013年 北海道マラソン 3位
- 2014年 東京マラソン 7位
- 2014年 ウィーンマラソン 7位
- 2015年 名古屋ウィメンズマラソン 4位
- 2015年 世界選手権 7位

<大会に向けての抱負>

初めてオリンピック代表に決定し、嬉しく思うとともに身が引き締まる思いです。

一喜一憂しないで積み重ねを大切に、自分の力をオリンピックの舞台で出し切れるように頑張ります。

<種目の魅力>

マラソンは心・技・体のバランスがとても大切な競技です。どれか一つでも欠けてしまうと試合で力を出し切れません。

また、42.195kmと距離が長いので、ゴールするまで何が起きるかわからない競技でもあると思います。





福士 加代子 (ふくし・かよこ)
 ワコール・京都 1982/03/25 生
 板柳中学校→五所川原工業高校(青森)→ワコール
 選考大会成績：2016大阪国際女子マラソン 1位
 (日本人1位) 2時間22分17秒
 オリンピック出場回数：4大会連続4回目
 (2016/2012/2008/2004)

2004年は10000m、2008年と2012年は5000m、10000mで出場
 自己ベスト：2時間22分17秒

(2016大阪国際女子マラソン)

主な実績：(8位以内と海外レース)

- 2012年 大阪国際女子マラソン 8位
- 2013年 大阪国際女子マラソン 1位
- 2013年 世界選手権 3位
- 2014年 ベルリンマラソン 6位
- 2015年 シカゴマラソン 4位
- 2016年 大阪国際女子マラソン 1位

<大会に向けての抱負>

リオデジャネイロオリンピック女子マラソンで、私は、金メダルが欲しいので、何があろうとあきらめずに覚悟を持って走ってきます!!
 皆さん、応援よろしくお願いします!!

<種目の魅力>

マラソンとは自分自身の人生と同じで、面白い競技です。
 マラソンは自分の人生と同じで おもしろい。
 (おもしろいの津軽弁バージョン)



田中 智美 (たなか・ともみ)
 第一生命・東京 1988/1/25 生
 成田中学校→千葉英和高校(千葉)→玉川大学→
 第一生命
 選考大会成績：2016名古屋ウィメンズマラソン 2位
 (日本人1位) 2時間23分19秒
 オリンピック出場回数：初出場

自己ベスト：2時間23分19秒

(2016名古屋ウィメンズマラソン)

主な実績：(8位以内と海外レース)

- 2014年 名古屋ウィメンズマラソン 5位
- 2014年 横浜国際女子マラソン 1位
- 2015年 ベルリンマラソン 8位
- 2016年 名古屋ウィメンズマラソン 2位

<大会に向けての抱負>

私自身が高橋尚子さんに憧れてマラソンをやってみたくと思ったように私も元気にスタートラインに立ち、子ども達にマラソンって楽しそうだなと思ってくれるような走りをしたいです。

<種目の魅力>

キツイ練習をすればするほど目標を達成した時の達成感は最高です。そして達成したあとは苦しかった練習もすぐに忘れ、もっと速く走りたい、もっと頑張ろうと思える種目です。



大会ウェブサイト

<http://www.olympic.org/rio-2016-summer-olympics>

強化関連情報

強化委員会

2016年度強化競技者・ディベロップメントアスリート研修会・専任コーチ会議報告

(専任コーチ会議)

期日：平成28年4月8日(金) 11:00開始

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室1・2

参加者：強化競技者・ディベロップメントアスリートの専任コーチ(詳細は表1を参照)

内容：

1. 2016年度強化方針について

麻場強化委員長から以下の点について説明があった。

- ・強化方針(リオデジャネイロオリンピックおよび東京オリンピックに向けた強化方針)
- ・リオデジャネイロオリンピックまでのスケジュール
- ・リオデジャネイロオリンピック日本代表選考要項

2. アスリートとスポンサーシップ

- ・日本陸連の予算の内訳などを参考資料として、選手の強化に使われているお金の多くがスポンサーなどからの協賛金によって賄われていることに理解が求められ、スポンサーへの配慮が求められた。

3. 強化競技者・ディベロップメントアスリートの指定と処遇について

- ・カテゴリ毎の指定基準や味の素ナショナルトレーニングセンターおよび国立スポーツ科学センターの利用条件等について確認された。

4. アスリート委員会について

- ・これまでの経緯や今後の活動などについてアスリート委員会代表の高平慎士選手から報告があった。陸上競技の普及や選手のセカンドキャリア支援などについて積極的に参加していきたいとの抱負が語られた。

5. ブロック別ミーティング

- ・ブロックに分かれて各専任コーチと部長との間で、選手の状況やオリンピックに向けた選考の方法などについてミーティングが開かれた。

(強化競技者・ディベロップメントアスリート研修会)

期日：平成28年4月8日(金) 14:00開始

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター大研修室

参加者：強化競技者・ディベロップメントアスリート(詳細は表2を参照)

内容：

1. 2016年度強化方針について

麻場委員長から以下の点について説明があった。

- ・強化方針(リオデジャネイロオリンピックおよび東京オリンピックに向けた強化方針)
- ・リオデジャネイロオリンピックまでのスケジュール
- ・リオデジャネイロオリンピック日本代表選考要項

2. アスリートとスポンサーシップ

- ・事務局の大嶋事業部長より、日本陸連の予算の内訳などを参考資料として、選手の強化に使われているお金の多くがスポンサーなどからの協賛金によって賄われていることに理解したうえで、スポンサーへの配慮が求められた。これまでに問題となった事例についても具体的に示された。
- ・日本サッカー協会のコミュニケーション部係長高埜尚人さんか

表1

| 専任コーチ氏名 | 選手名 | 所属 |
|-----------|----------------|---------------------|
| 安井 年文 | 藤光 謙司 | ゼンリン |
| 安養寺 俊隆 | 山崎 里菜 | パナソニック |
| 越川 一紀 | 菅井 洋平 | ミズノ |
| 岡田 雅次 | 新井 涼平 | スズキ浜松AC |
| | 右代 啓祐 | |
| | 海老原 有希 | |
| 吉澤 永一 | 野田 明宏 | 明治大学 |
| 斉藤 由貴(代理) | 鈴木 亜由子 | 日本郵政グループ |
| | 関根 花観 | |
| 高木 孝次 | 野上 恵子 | 十八銀行 |
| | 佐久間 和彦 | |
| 佐藤 敏信 | 大石 港与 | トヨタ自動車 |
| | 早川 翼 | |
| | 窪田 忍 | |
| 山村 貴彦 | サニブラウンアブデルハキーム | 城西大附属城西高校 |
| 米原 正人(代理) | 西塔 拓己 | 愛知製鋼 |
| | 丸尾 知司 | 和歌山県教育庁 |
| | 松永 大介 | 東洋大学 |
| 及川 文隆 | | |
| 酒井 俊幸 | 川元 奨 | スズキ浜松AC |
| 松井 一樹 | 荒井 広宙 | 自衛隊体育学校 |
| | 道口 愛 | |
| 植田 恭史 | 高張 広海 | 日立ICT |
| 森田 修一 | 小野 裕幸 | 日清食品グループ |
| | 佐藤 悠基 | |
| 岡子 浩二 | 戸邊 直人 | 安藤財団 |
| | 平松 祐司 | 筑波大学 |
| 西 政幸 | 村山 紘太 | 旭化成 |
| | 鐘坂 哲哉 | |
| | 村山 謙太 | |
| | 大六野 秀敏 | |
| 森岡 芳彦 | 岩出 玲亜 | ノーリツ |
| | 沼田 未知 | 豊田自動織機 |
| 横川 里沙 | | |
| 藪下 明音 | | |
| 大串 亘 | 大迫 傑 | Nike Oregon Project |
| 大澤 陽祐 | 設楽 悠太 | Honda |
| 長沼 祥吾 | 萩原 歩美 | ユニクロ |
| 田内 健二 | ディーン 元気 | ミズノ |
| 渡辺 康幸 | 竹澤 健介 | 住友電工 |
| 土江 寛裕 | 桐生 祥秀 | 東洋大学 |
| 湯本 善之 | 小林 快 | ピックカメラ |
| | 岡田 久美子 | |
| 北島 亮 | 浅田 千安芸 | DNP西日本 |
| 渡辺 辰彦(代理) | 村上 幸史 | スズキ浜松AC |
| 里内 正幸 | 清田 真央 | |
| | 牧川 恵莉 | |
| | 安藤 友香 | |
| 林田 章紀 | 松下 祐樹 | ミズノ |
| | 設楽 啓太 | |
| 磯松 大輔 | 宇賀地 強 | コニカミノルタ |
| | 山本 浩之 | |
| 船越 一彦 | 衛藤 昂 | AGF |
| 林 清司 | 松田 瑞生 | ダイハツ |
| 大嶋 健太(代理) | 木村 文子 | エディオン |
| 武富 豊 | 小原 怜 | 天満屋 |
| 櫻井 健一 | 増野 元太 | モンテローザ |
| 本田 陽 | 中村 明彦 | スズキ浜松AC |
| 今村 文男 | 鈴木 雄介 | 富士通 |
| | 高橋 英輝 | |
| | 森岡 紘一郎 | |
| 苅部 俊二 | 岸本 鷹幸 | 大塚製薬 |
| | 金丸 祐三 | |
| 吉川 三男 | 横田 真人 | 富士通 |

表2

| 競技種目名 | 選手名 | 所属 |
|-------------|--------|-----------|
| 200m | 藤光 謙司 | ゼンリン |
| 200m | 高瀬 慧 | 富士通 |
| 400m | 金丸 祐三 | 大塚製薬 |
| 800m | 川元 奨 | スズキ浜松AC |
| 800m | 横田 真人 | 富士通 |
| 10000m | 村山 紘太 | 旭化成 |
| 10000m | 鏑坂 哲哉 | 旭化成 |
| 10000m | 村山 謙太 | 旭化成 |
| 10000m | 設楽 悠太 | Honda |
| 10000m | 大六野秀敏 | 旭化成 |
| 10000m | 宇質地 強 | コニカミノルタ |
| 10000m | 山本 浩之 | コニカミノルタ |
| 10000m | 佐藤 悠基 | 日清食品グループ |
| 10000m | 小野 裕幸 | 日清食品グループ |
| 10000m | 大石 港与 | トヨタ自動車 |
| 10000m | 設楽 啓太 | コニカミノルタ |
| 10000m | 早川 翼 | トヨタ自動車 |
| 10000m | 窪田 忍 | トヨタ自動車 |
| 100mH | 増野 元太 | モンテローザ |
| 400mH | 野澤 啓佑 | ミズノ |
| 400mH | 松下 祐樹 | ミズノ |
| 400mH | 岸本 鷹幸 | 富士通 |
| 20kmW | 高橋 英輝 | 富士通 |
| 20kmW | 藤澤 勇 | ALSOK |
| 20kmW | 松永 大介 | 東洋大学 |
| 20kmW | 西塔 拓己 | 愛知製鋼 |
| 20kmW | 小林 快 | ビックカメラ |
| 20kmW | 丸尾 知司 | 和歌山県教育庁 |
| 20kmW | 及川 文隆 | 東洋大学 |
| 20kmW | 野田 明宏 | 明治大学 |
| 50kmW | 谷井 孝行 | 自衛隊体育学校 |
| 50kmW | 森岡紘一朗 | 富士通 |
| 走高跳 | 戸邊 直人 | 安藤財団 |
| 走高跳 | 平松 祐司 | 筑波大学 |
| 棒高跳 | 山本 聖途 | トヨタ自動車 |
| 棒高跳 | 荻田 大樹 | ミズノ |
| 走幅跳 | 菅井 洋平 | ミズノ |
| 走幅跳 | 下野伸一郎 | 九電工 |
| やり投 | 新井 涼平 | スズキ浜松AC |
| やり投 | 村上 幸史 | スズキ浜松AC |
| やり投 | ディーン元気 | ミズノ |
| 十種競技 | 右代 啓祐 | スズキ浜松AC |
| 十種競技 | 中村 明彦 | スズキ浜松AC |
| 100m | 福島 千里 | 北海道ハイテクAC |
| 10000m・マラソン | 清田 真央 | スズキ浜松AC |
| 10000m | 萩原 歩美 | ユニクロ |
| 10000m | 牧川 恵莉 | スズキ浜松AC |
| 10000m | 安藤 友香 | スズキ浜松AC |
| 10000m | 山崎 里菜 | パナソニック |
| 10000m | 松田 瑞生 | ダイハツ |
| 10000m・マラソン | 岩出 玲亜 | ノーリツ |
| マラソン・10000m | 小原 怜 | 天満屋 |
| 20kmW | 岡田久美子 | ビックカメラ |
| 20kmW | 五藤 怜奈 | 中部学院大学 |
| 20kmW | 道口 愛 | 自衛隊体育学校 |
| やり投 | 海老原有希 | スズキ浜松AC |

ら、日本サッカー協会の事例を基に、スポンサーとの関わり方について、またその重要性について講話をいただいた。

3. アンチ・ドーピング関連情報について

・日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) から、昨今問題となっているアンチ・ドーピング関連の事例について説明があり、競技活動において注意が必要な事象について理解が求められた。

4. 日本陸連強化競技者について

・平野幹事から強化競技者の規程および標準記録等について説明があった。

5. アスリート委員会について

・これまでの経緯や今後の活動などについてアスリート委員会代表の高平慎士選手から報告があった。陸上競技の普及や選手のセカンドキャリア支援などについて積極的に参加していきたいとの抱負が語られた。

第22回世界ハーフマラソン選手権大会報告

日本代表選手団監督 酒井 勝充

1. 期日：2016年3月26日 (土)

派遣期間：3月21日 (月)～28日 (月)

2. 場所：英国 (ウエールズ) カーディフ

3. 成績

| (女子) | | |
|--------------|------------------|--|
| 氏名 | 所属 | 成績 |
| 安藤 友香 | スズキ浜松AC | 10位 1時間10分34秒 |
| | | 16'32/33'01 (16'29) /49'40 (16'39) /1'06'49 (17'09) / (3'45) |
| 清水 美穂 | ホクレン | 14位 1時間10分51秒 |
| | | 16'32/33'12 (16'40) /49'51 (16'39) /1'07'07 (17'16) / (3'44) |
| 松田 瑞生 | ダイハツ | 17位 1時間11分00秒 |
| | | 16'32/32'51 (16'19) /49'41 (16'50) /1'07'17 (17'36) / (3'43) |
| 石井 寿美 | ヤマダ電機 | 36位 1時間13分41秒 |
| | | 16'35/33'52 (17'17) /51'22 (17'30) /1'09'44 (18'22) / (3'57) |
| 和久 夢来 | ユニバーサルエンターテインメント | 68位 1時間17分30秒 |
| | | 17'46/36'22 (18'36) /54'52 (18'30) /1'13'32 (18'40) / (3'58) |
| 団体 (上位 3名合計) | 3位 3時間32分25秒 | |

| (男子) | | |
|--------------|--------------|--|
| 氏名 | 所属 | 成績 |
| 工藤 有生 | 駒澤大学 | 22位 1時間03分41秒 |
| | | 14'35/29'36 (15'01) /44'26 (14'50) /1'00'15 (15'49) / (3'26) |
| 大石 港与 | トヨタ自動車 | 28位 1時間04分11秒 |
| | | 14'50/29'44 (14'54) /44'48 (15'04) /1'00'48 (16'00) / (3'23) |
| 茂木圭次郎 | 旭化成 | 29位 1時間04分19秒 |
| | | 14'50/29'44 (14'54) /44'49 (15'05) /1'00'51 (16'02) / (3'28) |
| 中谷 佳祐 | 駒澤大学 | 35位 1時間04分43秒 |
| | | 14'32/29'22 (14'50) /44'06 (14'44) /1'00'56 (16'50) / (3'47) |
| 中村 匠吾 | 富士通 | 36位 1時間04分49秒 |
| | | 14'33/29'42 (15'09) /44'55 (15'13) /1'01'20 (16'25) / (3'29) |
| 団体 (上位 3名合計) | 5位 3時間12分11秒 | |

4. 目標、評価、分析

(1) 目標 女子 個人8位入賞・団体3位入賞

男子 個人8位入賞・団体6位入賞を目標に掲げレー

スに臨んだ。

(2) 評価 女子は、個人で安藤選手が8位から21秒差の10位であったが、団体ではオーストラリアを23秒差で退け3位を確保し前大会に引き続き表彰台に上がった。しかし、男子は、個人で工藤選手の22位が最高で目標から大きく乖離してしまった。但し団体においては5位入賞を成し遂げ目標を達成した。今回は男女とも20歳台前半の選手が多く積極的にレースを進めていたが、世界レベルとの差は依然と大きかった。しかし、世界レベルの選手と競い合う経験が今後の選手たちの成長に繋がったと考える。

(3) 分析 今回の大会は、気象条件(強風、雨)が悪かった為、自己記録更新者が皆無であった。レースを振り返ると男子は先頭集団が序盤から速いペースでレースを展開した為対応できなかった。但し、女子の3選手(安藤、清水、松田)は前半から積極的に先頭集団でレース出来たことが団体3位に結びついた。参加者の持ちタイムはレベルの高い記録を残しているが、序盤から速いペースでレースを押し切る経験不足が起因し成果に結び付いていかないと考えられる。

(4) 優勝者のスプリット

| | 5k | 10k | 15k | 20k | GOAL |
|----|-------|---------|---------|---------|---------|
| 女子 | 16'31 | 32'34 | 48'14 | 1'04'13 | 1'07'31 |
| | | (16'03) | (15'40) | (15'59) | (3'18) |
| 男子 | 14'10 | 27'59 | 41'41 | 56'05 | 59'10 |
| | | (13'49) | (13'42) | (14'24) | (3'05) |

(5) 選手の自己評価

・安藤友香

世界のレベルを肌で感じる事が出来てとても良い経験をさせて頂きました。個人としては8位以内に入る事が出来ず悔しいですが、この結果をしっかり受け止めて、次のトラックシーズンに繋げていきたいです。

・清水美穂

初めての世界ハーフで世界との差を感じる事になったが、いい経験が出来たことでこれからのトラックレースに繋がると思う。また、女子団体の銅メダル獲得に貢献する事が出来、良かった。

・松田瑞生

前半からケニア・エチオピア勢についていき、なかなか経験できないようなレースでも楽しかったです。今後に向けて凄く良い経験になりました。沢山の課題を見つけることができたので今後に繋げていきたいです。

・石井寿美

悔いある結果になってしまったが、感じた事、得るモノがたくさんあったので今後に繋げていきたい。いい経験ができました。

・和久夢来

日本代表として世界大会に出れたことは本当に貴重な経験になりました。陸上に対しての世界観が広がり、たくさんの刺激やパワーをもらえました。感じたことはたくさんありましたが、世界という大きな舞台で走れた喜びがとても大きいです。次こそ世界で戦える選手になれるように頑張ります。

・工藤有生

今回の世界ハーフマラソンでは慣れない環境で適応することの難しさやハイスピードのレース展開などを学ぶことが出来たいい経験になりました。今後の競技生活でこの経験が結果に繋がるように練習を頑張ります。

・大石港与

今回感じた苦しさ悔しさ、世界のレベルの高さというものは、実際に走った選手にしか分からないものだと思います。せっかく得られたこの経験を、今後の競技生活に繋げていければと思います。

・茂木圭次郎

今回が初の海外レース、世界大会で、今までにない経験ができたので、今後に繋げていきたいです。

・中谷佳祐

今回の世界ハーフでは、納得のいく結果が残せなかったのが正直な気持ちです。しかし、日本人の選手の中で一番長い時間先頭集団で走れたことは今後に繋がると思いました。どんな悪状況の中でもしっかり走れる選手になるためにこれからも努力していきます。

・中村匠吾

今回の結果で改めてスピード強化の大切さを感じました。世界ハーフで経験した事をトラックシーズンに繋げ日々成長出来るよう努力していきます。

5. 試合までのトレーニング、現地調整について

(1) 試合までのトレーニング

世界ハーフに向け、足に不安を抱えていた選手、選考大会以降調子が上がらない選手も居たが男子陸連合宿(延岡)をはじめとする所属チームでの強化練習で調子を上げるトレーニングを積みレースに臨んだ。

(2) 現地調整

移動は空路約12時間、バス移動で約2時間30分でレース会場となるカーディフにPM8:00過ぎに到着した。到着後選手に大きな疲労、体調不良者は無かった。イギリスの気候は晴天の日が少なく曇りがちと思っていたが、到着した日とレース前日は快晴であった。また練習・食住環境に比較的恵まれており、落ち着いて調整を行うことが出来た。練習環境としては競技場が宿舎から2.5キロ程度の場所であった。しかし、前日となる金曜日は復活祭の為使用できなかった。但し近くに大きなビュート公園とタフ川に沿ってんのトレイルコースが整備されており、日本から持参した距離測定器を使用し、駒澤大学の八木監督がコースを測定して無事に調整練習をする事が出来た。食事に対して選手から不満の声も多少あったが、日本から持参したレトルト食品、近くに日本食レストランがあり、各自で対応していた。体調管理については向井ドクター、亘トレーナーと情報交換をしながら移動疲れや時差等の解消に努めていただいた。移動翌日に時差による体調不良を訴える選手もいたが、大きく体調を崩すことなくレース当日を迎えることが出来た。

6. その他、所感

(1) 海外レースの経験者が少なく、時差および練習環境で戸惑う事もあった。経験不足に起因するのでレース規模の大小を問わず海外レースの出場機会を増やすことで解消できると考える。

(2) オリンピック、世界選手権など順位が重要視される大会は、後半一気にペースが上がる事や序盤から日本人の感覚では想像できないペースでレースが進むこともある。今回の経験を踏まえ、それぞれの競技者や指導者が今後世界を相手に戦っていくための対策を国内で講じることが大事である。海外のレースに臨むにあたり、日本の様にすべて整えられた環境でレースが出来る事はほとんど無い考え、条件の整わない環境の中でも結果を出すためには、普段から高い対応力、強い精神力を磨くが必要であると考えられる。

2016世界室内陸上競技選手権大会（アメリカ ポートランド）大会レポート

強化委員会 フィールド統括 跳躍部部长 吉田 孝久

2016年3月17日から20日までアメリカ西海岸のポートランドで世界室内陸上競技選手権大会が行われた。この大会には、日本から桐生祥秀（東洋大）、菅井洋平（ミズノ）、山本聖途（トヨタ自動車）、甲斐好美（VOLVER）の4選手が参加した。スタッフには、土江寛裕（強化委員会男子短距離副部长）、小林史明（強化委員会委員）、村上博之（医事委員会トレーナー委員）、吉田孝久（強化委員会跳躍部長）が帯同した。

1. 日本選手の結果

大会までの準備としては、それぞれが個別に沖縄で合宿を行い、この大会に向けたスピードや技術練習を行った。

現地への移動は、大会3日前となる3月14日に日本を出発し、サンディエゴ経由で大会会場となるポートランド入りをした。現地と日本との時差は16時間あるため短い日程で体調が整うか心配であったが、桐生、菅井、山本らは海外での生活にも慣れていることもあり、体調面については問題なく整えることができたようであった。

大会初日の17日（木）は男女の棒高跳が行われた。競技進行の都合でこの日は棒高跳だけとなったが、場内の雰囲気は音楽が流れるなど、盛り上がった雰囲気の中で競技は進められた。

日本からは山本が出場した。この試合には世界記録保持者であるラビレニ（フランス）などドイツの数名の選手を除いた主要な選手が多く出場していた。

この試合までの山本は、1月にリオでのポールボルトサミットにも出場し、そこで室内日本記録となる5m77をクリアしていた。その後もアジア室内で5m60を跳躍するなど比較的安定した成績を残すことができていたので入賞を目標に大会に臨んだ。

試合は5m40から始まり、この高さは2回目に難くクリアした。次の5m55も1回目にクリアし、順調にラウンドを進めていくことができた。しかし、入賞ラインとなる5m65では高さは十分にあったものの空中で失速して跳ぶことができず、5m55で10位という成績に終わった。5m65を跳べば入賞、5m75を1回目でクリアすればメダルという結果であったので僅かな所で入賞とメダルを逃したが、夏のリオデジャネイロオリンピックに向けて手応えをつかむことができた試合であった。

翌日となる2日目からは通常通りのタイムテーブルで競技が進行した。

午前中のセッションでは男子60mの予選が行われ、最終7組に桐生が出場した。桐生は今大会が室内の初戦ということもあり、スタートの反応がやや悪かったが中盤から加速に乗りアメリカ選手に続いて2着でゴールして全体の7位で午後の準決勝にコマを進めた。

準決勝は3組行われ、桐生は1組目に出場した。最初のスタートでイギリス選手がフライングで失格となり2回目のスタートで号砲が切られた。スタートの反応は予選の時より良く、中盤もグングン加速していったがアメリカ、バルバドスの選手に続いて3着でのゴールとなった。記録は6"56の記録でプラスでの決勝進出に期待が持たれたが全体9位という成績で惜しくも決勝進出を逃した。

同日の午後には女子走幅跳の決勝が行われ、日本からは甲斐が出場した。

甲斐はこの試合が初の世界大会でかつ室内の初戦ということであった。屋外のトラックとボードトラックとは地面からの反発が微妙に違うのだが、それにうまく対応することができず、踏切板に足が全く乗らないというまま記録なしという残念な結

果に終わった。

大会最終日には男子走幅跳が行われ、これには菅井が出場した。

菅井もこの試合が室内の初戦であった。調子は悪くなかったように思ったが、ボードの反発にうまく乗れきれず、助走と踏切りが咬み合わなかったようであった。1本目が7m25と踏切りでスッポ抜けた跳躍、2本目はほぼ跳躍不成立、3本目に何とかまとめたものの踏切板に僅かに足が乗る程度で、記録は7m35の全体12位で予選敗退となった。

この大会を迎えるにあたり、海外の多くの選手はこれまでにいくつかの室内競技会を経てから出場していた。この試合は本来1月末から始まるインドアシーズンの総決算としてこの大会が位置づけられているのだが、山本を除く、桐生、菅井、甲斐はこの試合が室内競技会の初戦であった。そのため、試合感やスピード、技術といった細かいところを調整することが難しかったように感じた。

日本にはインドアシーズンがないので海外での試合を活用する方法しかないが、この大会に出場するのならば室内競技会を経験してから参加するなどの準備が必要だと感じた。

2. 海外選手の動向、中国の躍進

海外勢については、ドーピング疑惑のためにロシアが欠場し、アメリカの活躍が目立った大会であった。アメリカは男女26種目のうち半数である13種目で優勝した。優勝した種目は男子60m（T.プロメル）、男子800m（B.ベリアン）、男子1500m（M.セントロウィツ）、男子走幅跳（M.デンディー）、男子七種競技（A.イトン）、男子4×400mリレー、女子60m（B.ビエール）、女子60mH（N.アリ）、女子走高跳（V.カニングハム）、女子棒高跳（J.サー）、女子走幅跳（B.リーズ）、女子砲丸投（M.カーター）、女子4×400mリレーであった。

このうち女子走高跳では、大会1週間前の全米室内陸上で1m99の世界室内ジュニア記録を更新したV.カニングハムが1m96までの記録をノームスでクリアして優勝した。身長1m85、体重66kgと体格的にも恵まれており、この夏のリオデジャネイロオリンピックでも活躍しそうに感じた。

また、中国選手の躍進も目立った大会であった。

中国は60mで謝と蘇の二人が決勝進出を果たし、それぞれ4位と5位に入賞した。蘇は準決勝で6.50のアジア新記録をマークし、屋外に向けて順調な仕上がりをみせていた。

フィールド種目についても、男子走高跳で、張が昨年の世界陸上（北京）に続いて入賞を果たした（2m29）。また、男子走幅跳では黄が最終の6回目の試技で8m21を跳躍し、逆転して3位に入り銅メダルを獲得した。昨年の北京世界陸上の銅メダリストの王も7m93で8位に入りダブル入賞を果たした。さらに男子三段跳では董が17m33の記録で優勝し、女子では砲丸投の高が17m67で8位に入賞した。

近年、中国は棒高跳のラビレニのコーチをしていたダミアン氏やバンクスやパウエルのコーチであったハンティントン氏など海外の著名なコーチを指導者として招聘している。そしてインセップ（フランス）を拠点として室内競技会にも積極的に出ているようである。今回の結果もこうした指導者と海外拠点の効果が出ているようなので、東京オリンピックに向けて日本も参考にすべき点があるように感じた。

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2016大会要項

1. 主催

北海道陸上競技協会

2. 共催

日本実業団陸上競技連合、士別市、深川市、網走市、北見市

3. 後援

北海道新聞社、北海道文化放送、読売新聞社（いずれも予定）

4. 主管

道北陸上競技協会、空知陸上競技協会、オホーツク陸上競技協会

5. 協賛

ホクレン

6. 運営協力

日本陸上競技連盟・強化委員会

7. 会場・期日・種目

| 会場 | 場所 | 期日 | 種目 | |
|-------------|----------------------|----------|---|--|
| | | | 男子 | 女子 |
| 第1戦 士別大会 | 士別市 陸上競技場 | 7月3日(日) | 1500m、 5000m、 10000m | 1500m、 3000m、 10000m |
| 第2戦 深川大会 | 深川市 陸上競技場 | 7月7日(木) | 1500m、 5000m、 10000m、 3000mSC | 1500m、 3000m、 10000m |
| 第3戦 網走大会 | 網走市営 陸上競技場 | 7月11日(月) | 800m、 1500m、 5000m、 10000m、 5000mW | 800m、 1500m、 5000m、 10000m、 5000mW |
| 第4戦 北見大会 | 北見市 東陵公園 陸上競技場 | 7月14日(木) | 800m、 1500m、 5000m、 10000m、 10000mW | 800m、 1500m、 3000m、 5000m、 10000mW |

※ ベースメーカーは、主催者が準備する。

①主催者が準備するベースメーカー以外は認めない。

②設定ベースについては、事前に協議し決定する。

8. 参加資格

(1) 2016年度日本陸上競技連盟登録競技者。

(2) 下記の有効期間に、参加標準記録に到達した競技者。(トラックのみ有効)

1) 事前申し込み

第1戦～第4戦 2015年1月1日～2016年6月27日

2) 直前申し込み

第1戦(士別)なし

第2戦(深川)2015年1月1日～2016年7月4日

第3戦(網走)2015年1月1日～2016年7月8日

第4戦(北見)2015年1月1日～2016年7月11日

(3) 参加標準記録(※1)は以下の通りとする。

| 種目 | 男子 | | 女子 |
|---------|----------|----------|----------|
| | 士別・北見 | 深川・網走 | |
| 800m | 1'55"00 | 1'55"00 | 2'15"00 |
| 1500m | 3'55"00 | 3'55"00 | 4'30"00 |
| 5000m | 15'00"00 | 15'00"00 | 17'00"00 |
| 10000m | 30'00"00 | 28'45"00 | 34'00"00 |
| 3000mSC | 8'45"00 | 8'45"00 | — |
| 5000mW | 22'00"00 | 22'00"00 | 24'00"00 |
| 10000mW | 45'00"00 | 45'00"00 | 50'00"00 |

※1 女子3000mは1500m、5000m、10000m、3000mSCのいずれかで参加標準記録を満たしている競技者に参加資格を与える。

(4) 北海道陸上競技協会が推薦する北海道陸上競技協会登録競技者。

(5) 日本陸上競技連盟強化委員会が推薦する競技者。

(6) 日本実業団陸上競技連合が推薦する競技者。

9. 申込方法

大会ウェブサイトより所定の様式をダウンロードし、e-mailで5月30日(月)～6月27日(月)18:00までに申し込む。

*欠場、種目変更の場合は、各大会の3日前の18:00までに大会事務局に届け出る。

*直前の申し込みを認める。各大会の3日前の18:00までに大会事務局に届け出る。

*欠場の場合も出場料は、徴収する。

*主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、日本陸上競技連盟個人情報保護方針に基づき取扱う。尚、取得した個人情報は大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

10. 参加料

事前申し込み(事前申し込み締切日まで)

1種目につき2,000円

直前申し込み(事前申し込み締め切り後)

1種目につき3,000円

*参加料は当日会場で支払うこと。

11. 大会事務局

別途定める。

12. 強化費

(1) 記録強化費を支給する。(日本国籍の競技者のみ対象)

(2) 記録強化費支給基準は、別途定める。

(3) 記録強化費受給対象者から、該当大会終了後60日を超えて振込口座申請書の提出が無い場合は受給権を放棄したものとみなす。

13. 問い合わせ先

エントリー関連担当: 強化委員会

その他全般担当: 日本陸連事務局 浅田

TEL: 03-5321-6580 FAX: 03-5321-6591

e-mail: hokurendc2016@jaaf.or.jp

第3回 日本陸連栄養士の報告

医事委員・食育プロジェクト 田口 素子

2016年4月10日(日)味の素ナショナルトレーニングセンターにて第3回日本陸連栄養士会を開催した。第1回、第2回栄養士会は勉強会を開催して情報共有を図ったが、3回目の今年度は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツ栄養として何ができるか、すべきなのにかについて議論することとした。参加者は日本陸連食育プロジェクトメンバー、都道府県陸協の管理栄養士、実業団に所属する管理栄養士の計19名であった。

日本陸連栄養士会のミッションとゴール(2014年2月号の陸連時報に掲載)を達成するために、何をすべきかについて話し合った。そして、「陸上競技に関わる選手とその保護者、指導者、スポーツドクター、トレーナー、管理栄養士、スタッフのすべてが栄養摂取の大切さを理解し、それぞれのレベルで実践できるようにするための教育・普及システムを作ることを」を丸となって目指すこととした。その実現に向けてミッションを遂行していくために、以下の4つのワーキンググループを立ち上げ、互いに連携しながら具体的な作業を進めることで合意した。

【ワーキング1】 責任者: 田口素子医事委員

医事・普及・強化委員会への発信と情報共有方法の検討、都道府県陸協における管理栄養士の配置促進と日本陸連との連携推進、JISSとの連携、栄養サポートに関するエビデンスの蓄積、スポーツ栄養コンセンサスのアップデート、日本陸連栄養セミナー等の企画を担当。

【ワーキング2】 責任者: 大畑好美普及育成委員

ジュニア・保護者への啓蒙・普及活動、ジュニアセミナー(U13,16,19他)の講師調整と講義資料の作成、HPへの情報掲載を担当。

【ワーキング3】

責任者: 澤野千春氏(ワコール女子陸上競技部管理栄養士)

実業団の管理栄養士のとりまとめ、高校生・大学生の栄養に関する課題抽出、栄養サポートのニーズとシーズの整理、テーマ別レシピ資料の作成に向けた検討を担当。

【ワーキング4】 松本恵氏(日本大学陸上競技部管理栄養士)

大学レベルの栄養サポート担当者の状況把握、大学レベルのサポートニーズの整理、教育目標の具体的設定、陸連栄養士との連携、資料作成を担当。

なお、各ワーキンググループの進捗状況管理と成果の統合・発信は、食育プロジェクトを定期的(年4回程度を予定)に開催し、取りまとめていくこととした。当面は、陸連委員、都道府県陸協、実業団に所属する管理栄養士のうち活動の意思がある方に限定して作業を進めていくが、活動内容が整理され具体的な作業が進むようになれば、趣旨に賛同していただける方々にも参加をお願いしたいと考えている。



日本陸連栄養セミナー2016 開催報告

普及育成委員・食育プロジェクトメンバー 大畑 好美

2016年4月10日(日)味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて「日本陸連栄養セミナー2016」を開催した。本セミナーは、2008年より医事委員会と普及育成委員会が合同で発足させた「食育プロジェクト」の一環として実現したものである。今回は「陸上選手の貧血について考える」をテーマに、講演・トークショー・パネルディスカッションの3部構成とした。

冒頭、尾縣貢専務理事から、特に女子の長距離やマラソンで「やせれば走れる」との間違った考え方から、食事を減らし、エネルギー不足に陥り、結果的に骨粗鬆症や疲労骨折・スポーツ障害・貧血が生じているケースが多いことがあげられた。また貧血の対処法として、中学生・高校生にも鉄分の服用や注射がなされていることにも触れ、そのような環境に非常に危機感をもっているという点も強調した。そして本セミナーを、これらの問題を解決するためのきっかけとして認識すべきと強調した。

講演は2つのテーマを設けた。まずはじめに「貧血の種類と成因、血液データの読み方」について、真鍋知宏医事委員より講演を行った。貧血の分類・原因・症状・診断・予防といった基礎的な内容について、ケーススタディを交えながらの解説であった。

次に、山澤文裕医事委員長より「貧血対処方法に関する諸問題(サプリメント、鉄剤、鉄注射問題等)」について講演を行った。真鍋委員からの「スポーツ選手は鉄欠乏性貧血が最も多い」という内容を踏まえ、貧血の対処方法についてのより詳しい話をした。

鉄欠乏性貧血の予防は、まず食事で鉄分・ビタミンC・たんぱく質を多く摂ることが基本であること、鉄分摂取には上限値があること、栄養機能食品を多く摂れば健康に良いというものではない、といった原則論を改めて確認できた内容であった。さらに、鉄剤注射には危険が伴うため「鉄を打ってはいけない」ということにも触れていた。安易に

薬剤に頼ると、競技者にとって身体面での危険性が生じるとの啓発を行った。

参加者からは「鉄の過剰摂取になってしまった場合、医療機関でどのような対応をするのか？またその後はどうなるのか？」「ヘモグロビンだけではなく、フェリチン濃度もパフォーマンスに関連するのか？」といった具体的な質問が出ており、有意義なものとなった。

続いて、女子円盤投・ハンマー投の日本記録保持者で2004年アテネ五輪にハンマー投で出場した室伏由佳普及育成委員によるトークショーを行った。「貧血との闘いを乗り越えて」と題し、まず室伏委員より貧血に苦しんだ自身の経験を紹介し、その後、長坂聡子普及育成委員をモデレーターに、質疑応答の形式で進化した。

経験談では、中学から陸上競技を始め、高校で円盤投に取り組みようになったこと、大学進学後にトップアスリートとして頭角を現したことなど、22年間の競技生活についての話から始まった。また、その活躍の裏で鉄欠乏性貧血や婦人科疾患・腰痛といった、多くの問題に悩まされていたことにも触れていた。最後に「初潮を迎えたアスリートは、定期的に血液検査を行ってほしい」「栄養だけでは改善できないこともある」「専門機関にかかること・専門家に相談することをすすめる」との経験者ならではのメッセージを発信し、トークショーを終了した。

パネルディスカッションは「長距離選手の貧血について考える」をテーマとして、山澤医事委員長の司会により進化した。パネリストには、長距離・マラソンで活躍した3名のオリンピックを迎えた。スポーツライターの増田明美氏、第一生命女子陸上競技部監督の山下佐知子氏、ホクレンスポーツアンバサダーの赤羽有紀子氏である。ここに濱野純普及育成委員が加わった。

ディスカッションに入る前に、各パネリストが登壇し、山下氏には指導者の、赤羽氏には選手の、増田氏にはジャーナリストとしての立場から、長距離選手の貧血についての考えを述べた。濱野委員からは実業団長距離チームで専属の管理栄養士として勤めた経験を踏まえ、貧血を予防するための食事について、具体的な事例の紹介があった。

パネルディスカッションでは、以下の点について情報交換がなされた。

- ・鉄分摂取の実例について
- ・鉄分の過剰摂取について
- ・トラック競技とマラソンにおけるコンディショニングの違いについて
- ・発汗と鉄について
- ・食事管理とサプリメントについて
- ・選手に期待する数値の目安について

- ・現場指導者の関心事について
- ・普及活動における食事や貧血予防へのアプローチについて

ディスカッションのまとめとして、山澤委員長より「食事は基本中の基本。非常に重要である。バランスよく、楽しく食べることが大切であり、このことが選手を指導する際のキーワードになる」との話で締めくくった。

セミナーの最後に、今回のテーマである「陸上選手の貧血について考える」をもとに、日本陸連が作成した「アスリートの貧血対処7か条」を発表した。これは、アスリートの健康維持のためだけではなく、貧血の予防・早期発見・適切な治療を目指し、今回新たに作成したものである。今後はアスリートのみならず、指導者や保護者にも活用していただくことも踏まえ、7か条の文面を参加者全員に配付・確認し、宣言をして終了した。

冒頭でも述べた通り、本セミナーは「食育プロジェクト」の一環として開催したものである。今後も、指導者・保護者をはじめとした、選手の栄養サポートに携わる多くの方に、有益な情報提供ができるよう、プロジェクトメンバー全員で取り組んでいきたいと思う。

日本陸連「アスリートの貧血対処7か条」

1. 食事で適切に鉄分を摂取
2. 鉄分の摂りすぎに注意
3. 定期的な血液検査で状態を確認
4. 疲れやすい、動けないなどの症状は医師に相談
5. 貧血の治療は医師と共に
6. 治療とともに原因を検索
7. 安易な鉄剤注射は体調悪化の元



JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会

目的：地域スポーツクラブ(スポーツ少年団を含む)、小・中・高校生の部活動において発育発達段階を考慮した、陸上競技の基本指導ができる指導者を養成する。

主催：公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本体育協会

主管：公益財団法人日本陸上競技連盟普及育成委員会、開催陸上競技協会

申込方法

(1) 申込期間 2016年5月13日(金)～各会場開催日の1ヶ月前

(2) 申込方法 日本陸上競技連盟HPより申込

受講料

共通科目・専門科目受講：25,000円(税込み)

専門科目のみ受講：15,000円(税込み)

免除適用コース承認校在校生：10,000円(税込み)

詳細は日本陸上競技連盟HPをご確認ください。

【開催日程】

※開催日程、場所に変更になる場合がございます。「調整中」の会場は、決定次第に本陸連HPに掲載します。

| 会場 | 日程 | 会場 |
|----|---|--------------------------|
| 秋田 | 10月15日(土)、10月16日(日)、11月19日(土)、11月20日(日) | 秋田県営陸上競技場 |
| 山形 | 9月18日(日)、9月19日(月・祝)、12月3日(土)、12月4日(日) | 山形県総合運動公園内施設 |
| 福島 | 10月15日(土)、10月16日(日)、11月12日(土)、11月13日(日) | 福島大学 |
| 埼玉 | 10月22日(土)、10月23日(日)、10月29日(土)、10月30日(日) | 上尾陸上競技場 |
| 千葉 | 調整中 | 調整中 |
| 東京 | 8月26日(金)、8月27日(土)、8月28日(日) | 味の素ナショナルトレーニングセンター |
| 石川 | 11月19日(土)、11月20日(日)、12月3日(土)、12月4日(日) | 西部緑地公園陸上競技場 |
| 静岡 | 12月17日(土)、12月18日(日)、12月24日(土)、12月25日(日) | 草薙陸上競技場 |
| 滋賀 | 8月27日(土)、8月28日(日)、10月15日(土)、10月16日(日) | 甲賀市水口スポーツの森運動公園陸上競技場 |
| 大阪 | 8月12日(金)、8月13日(土)、8月14日(日) | 万博記念競技場 |
| 兵庫 | 7月23日(土)、7月24日(日)、8月6日(土)、8月7日(日) | 姫路市陸上競技場 |
| 広島 | 調整中 | 広島大学 |
| 山口 | 1月7日(土)、1月8日(日)、1月9日(月・祝) | 維新百年記念公園陸上競技場 |
| 香川 | 8月13日(土)、8月14日(日)、8月15日(月) | 調整中 |
| 福岡 | 8月11日(木・祝)、8月12日(金)、8月13日(土) | 福岡教育大学 |
| 佐賀 | 12月23日(金・祝)、12月24日(土)、1月7日(土)、1月8日(日) | 佐賀県総合運動場 |
| 長崎 | 1月7日(土)、1月8日(日)、1月9日(月・祝) | 長崎県立総合運動公園陸上競技場(諫早陸上競技場) |
| 大分 | 9月17日(土)、9月18日(日)、9月19日(月・祝) | 佐伯市総合運動公園 |
| 沖縄 | 1月21日(土)、22日(日)、1月28日(土)、1月29日(日) | 調整中 |

第203回国際陸上競技連盟(IAAF)カウンシル会議 報告

会長 横川 浩

第203回国際陸上競技連盟カウンシル会議が、2016年3月10日/11日、モナコで開催されたので、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. Sebastian Coe会長の発言

- ・昨年8月に会長に就任以来、様々な改革に取り組んでおり、その施策や陸上界に関する情報を適宜、正確に発信している。我々は、クリーンな選手を守るために、ドーピング問題に対して厳格に望まなければならない。IAAF組織体制については、過去の問題点を洗い出し、改善案の早急な確立に望んでいる。ガバナンスリフォームグループを立ち上げ、期限を設けて、組織改革案を実現していくが、これらは、IAAFの加盟団体の理解と承認が必須であり、必要に応じて臨時総会を開催する。
- ・11月に開催されたカウンシル会議後に、2016年のU20世界陸上競技選手権大会と世界チーム競歩選手権の開催地が各々ポーランド・ビドゴシチとイタリア・ローマに決定した。その他、リオオリンピックのタイムテーブルの変更と、2017年世界リレー(バハマ)の日程が4月22日/23日で承認された。Jean Gracia氏は、CEOが決定するまで事務総長としての責務を果たす。
- ・スポンサーシップの問題については、継続的に審議しているが、アディダスについては、2016年末まで契約が継続される。各スポンサーに対しては、電通も交え、IAAFの改革案と改革スケジュールを明確にしている。

2. Gracia事務総長の報告

- ・RDC (Regional Development Center) とHPTC (High Performance Training Center) の活動を監査する専門調査団を設け、活動内容の調査と会計監査を実施する。
- ・ガボン、ガーナの会員資格を認める。パレスチナの選手が国際大会に参加出来る様にIOCと協力する。

3. 今後の競技会

- ・2017年ロンドン世界選手権のタイムテーブル、ロード種目/混成種目/10000mの参加標準記録が承認された。男女のマラソンを同日開催とし、その日をRoad Running Dayとして、大会を盛り上げていく。
- ・コンチネンタルカップ(オーストラバ)の開催日程を2018年9月8日/9日とする。
- ・2017年のIAAF World Indoor Tourにデュッセルドルフを加える。
- ・2017年のDiamond Leagueからニューヨークが外れ、ラバト(モロッコ)が新たに加わる。
- ・2017年にナイロビで開催予定のU18世界陸上競技選手権大会については、様々な報道がされているが、IAAFがその準備状況を確認していく。

4. OAD (Olympic Athletics Dividend)

- ・昨年10月、IAAFは陸上普及の助成金として、OADを発表し、その申請を各国から受け付けた所、約150カ国からの申込みがあった。審査を経て、承認された場合には、年間25,000ドルが支給される。

5. アンチドーピング活動

- ・WADAは、IAAFのアンチドーピングプログラムが問題無く遂行されていると評価している。今後も競技会外

検査の数を増やすなど、監視システムを強化していく。

- ・エチオピア、モロッコ、ベラルーシ、ケニア、ウクライナの5か国に対し、アンチドーピング態勢の不備を指摘し、警告を行った。エチオピアとモロッコは国際検査機関の人材確保や組織整備状況を緊急事態として指摘し、ベラルーシ、ケニア、ウクライナは監視リストにおいて、年末までに検査態勢を強化する様に求めた。
- ・メディカル部門とアンチドーピング部門を切り離し、ドーピング調査委員会を設置する事によって、反ドーピング体制を強化する。

6. 競技会開催地の決定

- ・2018年世界ハーフマラソン選手権の開催地として、バレンシア(スペイン)とソボット(ポーランド)が立候補し、入札内容を審議の結果、バレンシアで開催される事に決まった。尚、Coe会長は、開催地の決定については今後も含め、自らは投票を行わないとした。
- ・2018年U20世界陸上競技選手権大会の開催地に立候補したのは、タンペレ(フィンランド)のみで、入札内容を審議の結果、開催地に適すると決定した。

7. 今後の改革

- ・リフォームタスクフォースが、IAAFの財政管理について調査し、改革案を提示し、ガバナンスを強化していく。即時に対応すべき改善点については、速やかに取り組んでいく。
- ・現組織の見直し、新たな組織体制の提案と構築を、明確なタイムラインを持って遂行する。CEOも含め、有能な人材の確保に努める。
- ・倫理コンプライアンスグループを設置し、新たな手順や実質的な内容を盛り込んだ規範を作成する。
- ・ガバナンスリフォームのワーキンググループを設置し、組織の見直しを遂行する。

8. ロシア問題

- ・資格停止処分中のロシア陸上競技連盟のリオオリンピックも含む国際大会への復帰については、5月にも行うカウンシル会議で結論を出す。ロシアは、ドーピングに関わったコーチの追放や反ドーピング教育の整備など、ある程度の改革を行ったが、IAAFが示した条件には十分に達していないので、現段階で復帰を認めるのは適当ではないと判断した。
- ・ロシアのドーピング問題を告発したユリア・ステパノワに国際大会への出場資格を認めるかについては、今後検討し、次回のカウンシル会議で決定する。



大会観戦ガイド

第100回日本陸上競技選手権大会（混成競技） 第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会 （混成競技）兼 第31回オリンピック競技大会 （2016 / リオデジャネイロ） 代表選手選考競技会

- ▼期日：2016年6月11（土）～12日（日）
- ▼会場：長野市営陸上競技場 長野県長野市東和田632
- ▼アクセス：JR「北長野」駅下車徒歩約20分
長野電鉄「朝陽」駅下車徒歩約15分
長野電鉄バス「運動公園」下車
上信越道「須坂長野東インターチェンジ」より約20分
- ▼種目： 男子 〈日本選手権〉十種競技
〈ジュニア選手権〉十種競技
女子 〈日本選手権〉七種競技
〈ジュニア選手権〉七種競技
- ▼問合せ先：一般財団法人長野陸上競技協会事務局
TEL 090-1867-7044
※大会の詳細は日本陸上競技連盟公式WEBサイト内、大会ページ<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1372/>で随時アップします！

第100回日本陸上競技選手権大会 兼第31回オリンピック競技大会（2016 / リオデジャネイロ）代表選手選考競技会

- ▼期日：2016年6月24日（金）～6月26日（日）
- ▼場所：パロマ瑞穂スタジアム
名古屋市瑞穂区山南通5-1
- ▼アクセス：
名古屋駅方面から→名古屋市営地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」下車、2番出口から徒歩10分～15分
金山駅方面から→名古屋市営地下鉄名城線「瑞穂運動場東」下車、3番出口から徒歩3分～10分
市バスを利用
・金山14 金山 ↔ 瑞穂運動場東「瑞穂運動場東」下車、徒歩3分～10分
・金山15 金山 ↔ 瑞穂運動場東「瑞穂グラウンド」下車、徒歩1分～10分
・瑞穂巡回 新瑞橋 ↔ 新瑞橋「瑞穂グラウンド」下車、徒歩1分～10分

▼座席図及びチケット料金

6/24日（金）料金表

| 区分 | 開催日 | 券種 | 100回記念シート | 席種 | | |
|-----|----------|-------|-----------|--------|----------|-----------------|
| | | | | S席 | 車椅子席・介添席 | A席 |
| 前売券 | 6月24日（金） | 一般 | 販売無し | ¥2,000 | ¥2,000 | ¥1,000 |
| | | 高校生以下 | | ¥1,000 | ¥1,000 | ¥500 小学生以下無料 |

| 区分 | 開催日 | 券種 | 100回記念シート | 席種 | | |
|-----|----------|-------------|-----------|--------|----------|---------|
| | | | | S席 | 車椅子席・介添席 | A席 |
| 当日券 | 6月24日（金） | 一般 | 販売無し | ¥2,500 | ¥2,500 | ¥1,500 |
| | | 中高生 | | ¥1,500 | ¥1,500 | ¥1,000 |
| | | シルバー（60歳以上） | | ¥1,500 | ¥1,500 | ¥1,000 |
| | | 小学生以下で座席を利用 | | ¥1,500 | ¥1,500 | 小学生以下無料 |

■6/24日（金）座席図



6/25日（土）、6/26日（日）料金表

| 区分 | 開催日 | 券種 | 100回記念シート | 席種 | | |
|-----|----------------------|-------|-----------|--------|----------|-----------------|
| | | | | S席 | 車椅子席・介添席 | A席 |
| 前売券 | 6月25日（土） 6月26日（日） | 一般 | ¥5,000 | ¥2,000 | ¥2,000 | ¥1,000 |
| | | 高校生以下 | | ¥1,000 | ¥1,000 | ¥500 小学生以下無料 |

| 区分 | 開催日 | 券種 | 100回記念シート | 席種 | | |
|-----|----------------------|-------------|-----------|--------|----------|---------|
| | | | | S席 | 車椅子席・介添席 | A席 |
| 当日券 | 6月25日（土） 6月26日（日） | 一般 | ¥5,500 | ¥2,500 | ¥2,500 | ¥1,500 |
| | | 中高生 | | ¥1,500 | ¥1,500 | ¥1,000 |
| | | シルバー（60歳以上） | | ¥1,500 | ¥1,500 | ¥1,000 |
| | | 小学生以下で座席を利用 | | ¥1,500 | ¥1,500 | 小学生以下無料 |

■6/25日（土）、6/26日（日）座席図



▼チケット販売概要

■販売期間

発売開始：2016年05月09日（月）10時00分～各開催日前日23時59分59秒まで

■前売り販売窓口

●ローソンチケット

Lコード: 43066

インターネット予約: ローチケ.com [【http://l-tike.com】](http://l-tike.com)

電話予約: 0570-084-004 (要Lコード)

(24時間購入可能/発売初日は10時~)

●チケットぴあ

Pコード: 832-622

インターネット予約: <http://pia.jp/t/>

電話予約: 0570-02-9999 (Pコード予約)

CVS (店頭販売): 全国のチケットぴあ店舗、サークルK・サンクス、セブン-イレブン

(24時間購入可能/発売初日は10時~)

●e+ (イープラス)

インターネット予約: <http://eplus.jp/>

CVS (店頭販売): 全国のファミリーマート

(24時間購入可能/発売初日は10時~)

ファミポート操作手順: チケット⇒e+ (イープラス) ⇒スポーツ⇒その他スポーツ

●CNプレイガイド

インターネット予約: <http://www.cnplayguide.com/>

電話予約: 0570-08-9999 (10:00 ~ 18:00)

CVS (店頭販売): 全国のセブンイレブン、ファミリーマート

(CVS 24時間購入可能/発売初日は10時~)

■100回記念シートについて

- ・日本陸上開催100回を記念して100回記念シートを販売します。
- ・特典として、オフィシャルプログラム、100回記念グッズをプレゼントします。
- ・前売券をご購入の際は、正面スタンド前広場の100回記念シート専用窓口にて100回記念グッズをお渡しします。
- ・当日券は、正面スタンド前広場の100回記念シート専用窓口にて販売します。
- ・100回記念シートは小学生以下の未就学児は無料ですが、座席をご利用の際はチケットの購入が必要となります。
【ご注意】前売券で完売の際は、当日券の販売を行いませんので、予めご了承ください。

■チケット購入時のご注意

※下記内容をご理解のうえご購入ください。

- ・当日券の販売は、開催日当日分のみです。 ※翌日分等の販売は行いません。
- ・購入のチケットは、指定日の当日限り有効です。
- ・3日間通しのチケット販売はありません。
- ・各種チケットはエリア指定です。エリア内はご自由に移動できます。
※座席指定ではありません。
- ・100回記念シート、S席は小学生以下の未就学児は無料ですが、座席をご利用の際はチケットの購入が必要となります。
- ・チケットの払い戻しや、差額を払ってのランクアップ購入は出来ません。
- ・座席によっては、競技場内すべてが見渡せない場所もございます。
- ・S席、A席の一部には撮影禁止エリアがあります。カメラ、スマートフォン、ビデオ等での動画・写真撮影は禁止です。
【ご注意】撮影禁止エリアでの撮影を発見次第、媒体没収のうえ、ご退場頂くこともございます。

■当日チケット販売について

- ・各席、前売券で完売の際は、当日券の販売を行いませんので、予めご了承ください。
※各チケット購入窓口や日本陸連HPでご確認ください。
- ・当日券は、正面スタンド前広場のチケット販売所にて販売します。
- ・中高生、シルバーのチケットは、ご本人様のみ購入・利用が可能です。
(購入の際は学生証や年齢の証明できるもののご提示が必要となります。)

■入場・再入場時のご注意

- ・入場ゲートはメインスタンド側とバックスタンド側の2箇所ございます。混雑緩和のため座席のお近くのゲートより入場ください

ますようお願いいたします。

- ・開場時間は、天候等の状況によりやむ負えず変更になる事もありますので、予めご了承ください。
- ・競技場入口では、手荷物検査を行います。入場に時間がかかる事もございますので余裕をもってご来場ください。
- ・競技場内にはビン、カン等の危険物の持込は出来ません(ビン、カンに入った飲料は入口で紙コップに移し替えて頂きます)。
- ・競技場内にはペットの同伴は出来ません。(盲導犬、聴導犬、介助犬等は入場出来ます)。
- ・再入場は可能です。再入場の際にはチケットの提示が必要です。紛失やお手元にない場合は、再購入が必要になります。

■座席の移動について

※混雑時のご移動はお控え頂きますようご協力お願いいたします。

- ・100回記念シートを購入の場合は、S席、A席に移動可。
- ・S席を購入の場合は、A席に移動可 ※100回記念シートへは移動不可。
- ・A席を購入の場合は、A席のみ ※100回記念シート、S席へは移動不可。
- ・各エリアへの移動の際は、スタッフがチケットの確認を行いますので必ず携帯してください。

■車椅子席について

- ・車椅子席、介添え席をご購入は下記、第100回日本陸上競技選手権大会 チケット問い合わせ窓口までご連絡下さい。
【ご注意】ローソンチケット、チケットぴあ、e+ (イープラス)、CNプレイガイド等の窓口では販売を行っていません。
- ・車椅子席は、S席 (メインスタンド) のみとなっています。
- ・介添え席の購入は、車椅子席1席につき1席までとさせていただきます。
- ・席数に限りがございますので、お早めにお買い求めください。(30席)
- ・会場に到着の際は、インフォメーションにお越し下さい。スタッフが座席までご案内します。

■その他のご注意

- ・お荷物は膝の上や座席の下に置いてください。場合によりスタッフがお声掛けさせて頂く事もございます。
- ・一人でも多くのお客様が座れるよう、ご協力をおねがいします。
- ・競技場内の通路や階段での立ち見は、危険ですのでおやめください。
- ・置き引き等やお客様同士のトラブルについて、大会では責任を負いかねますのでご注意ください。
- ・有事や災害時等で避難指示が出た際は、スタッフの指示に従ってください。
- ・競技場周辺は、駐車場がございません。公共交通機関をご利用のうえご来場ください。

■チケットに関する問い合わせ先

第100回日本陸上競技選手権大会 チケット問い合わせ窓口

電話/FAX: 03-5974-1192

(土曜、日曜、祝日を除く 10:00 ~ 18:00)

▼問合せ先

日本陸上競技連盟事務局

TEL:03-5321-6580 FAX:03-5321-6591

(土・日祝日を除く10:00~18:00)

※大会の詳細は日本陸上競技連盟WEBサイト内、特設ページ <http://www.jaaf.or.jp/jch/100/>で随時アップします。



JAAF
SAGA

一般財団法人佐賀陸上競技協会

〒840-0852 佐賀市中折町10-18 高橋正秀様方
TEL.0952-23-8961 FAX.0952-23-8961
http://www.sagarikujyo.jp/

4月3日さが桜マラソン2016が開催された国内外1万のランナーが
出場。

今回招待選手として有森裕子さんが出場、桜満開の中沿道を埋めた
8万人の声援3千人のボランティアの温かい声援の中、出場選手完走
率90%をこえる大会でランナーから高い評価を得た大会であった。

佐賀県では7年後、平成35年に第78回国民体育大会が開催、昨年
国民体育大会準備委員会総会、国民体育大会競技力向上対策本部、
選手強化対策委員会が発足した。

平成35年佐賀国体開催に向け、強化部、普及部、連携して小学生、
中学生の選手の強化・普及育成、及び指導者の育成を図りたい。

又、佐賀陸協審判員の高齢化の一途であるため若手の育成を目指し
て7年後の国体では、万全な競技運営ができるよう準備を進めたい。

佐賀県に対して選手育成強化の費用、スポーツ施設の整備などの他
の競技団体と連携して要望し「チーム佐賀」として7年後の佐賀国体の
成功に頑張っていきます。

JAAF
OITA

一般財団法人大分陸上競技協会

〒870-0931 大分市西浜1-1 大分市営陸上競技場3階
TEL.097-552-7808 FAX.097-552-7806
http://www.d-b.ne.jp/oita-rik/

2月22日から26日の5日間、地元紙の大分合同新聞社等と共催で
伝統ある春季県体第58回県内一周大分合同駅伝競走大会が開催され
た。全17郡市16チームの参加で熱戦を繰り広げた、県内を一周する
この大会は長距離選手の檜舞台であり、地元都市のヒーローです。多
くの県民が沿道で声援を送り、我が地元選手の到着を、今か今かと待っ
ている。少しでも表彰の機会を与えるために、A、B、Cの3部制で
行い累計タイムを競う。長い歴史の中で競走規定を検討し、今大会も
箱根駅伝の選手が、参加出身郡市チームを元気づけた。彼等を目
見ようと多くの小・中・高校生が沿道に出た。

優勝は県都大分市であった。やはり人口も多く若年層も多い、圧倒
的な勝利である。年間の練習量も多く、企業、大学もあり選手層が厚い。
しかし、他郡市も選手が少なく、恵まれない環境の中で健闘している。
中でも別府市が7年ぶりに大分市を押しさえ、2日目、日間首位を奪い、
準優勝に輝いた。3位には竹田市が、人口も少ない中、大学生の活躍
も有ったが、長距離の強い地域の伝統を守った。他チームも厳しい環
境の中、一年間の練習を通して選手を育成して、この大会に臨んでいる。
大会期間中、インフルエンザ流行期のため、5日間の選手管理も
大変である。各郡市の指導者には頭が下がる。

また、大会を支えていただく、警察、道路関係機関、協力団体に感
謝したい。県民に愛される、この大会を末長く守るべく努力をしてい
きたい。

(文責：理事長 船越武典)

JAAF
NAGASAKI

一般財団法人長崎陸上競技協会

〒854-0061 諫早市宇都町27-1
一般社団法人 長崎県公園緑地協会管理事務所分室内
TEL.0957-21-1921 FAX.0957-47-5411
http://jaaf-nagasaki.net

長崎陸協競歩大会で2年連続日本新記録

第6回長崎陸協競歩大会は、2015年12月13日(日)長崎県立総合
運動公園陸上競技場で開催され、男子10000mWで高橋英輝選手(富
士通・千葉)が38分01秒49で日本新記録を達成した。これまでの記
録は、鈴木雄介選手(富士通)の38分10秒23。世界記録にあと9秒
と好記録の高橋選手は昨年の同大会でも日本新記録を樹立しており2
年連続の日本新記録となった。(ランドコンディションは、晴れ、北
西の風1.5m、気温13.5℃、湿度66%)

本大会は、競歩競技の普及を目的として2010年(平成22年)に「佐
世保競歩大会」としてスタート。2013年「長崎陸協競歩大会」に改称、
2014年第5回大会から日本陸連後援競技会として、「2014長崎がんばら
んば国体」主競技場の県立総合運動公園陸上競技場で開催している。

大会は、高橋選手のほか、地元長崎出身の森岡紘一郎選手(諫早
高校・順天堂大・富士通)、女子20km競歩北京世界陸上日本代表、
岡田久美子選手(ビックカメラ・東京)を招待し、長崎県内外から
138名が参加し11部門で熱戦が繰り広げられた。

大会前日の12月12日は、森岡、高橋、岡田の各招待選手と富士通・
今村文男コーチの指導のもと「競歩クリニック」を開催し小中高
生100名が参加した。競歩競技の普及に向けた本協会の取り組みは、僅
かではあるが芽生え始めた。

2016年の第7回大会は、12月11日(日)に開催する。好記録が期
待される同競技場での大会に多くのご参加を募っています。

陸協NEWS



JAAF
MIYAZAKI

一般財団法人宮崎陸上競技協会

〒880-0022 宮崎市大橋2-6-1 ヤオイビル5階
TEL.0985-25-6011 FAX.0985-25-6011
<http://www.miyariku.org/>

2巡目宮崎国体まで、あと10年。10年後の国体に向け、本協会としても本格的に準備を進めることに。

まずは、盤石の競技会運営を目指すため、審判員養成からはじめることになった。1巡目宮崎国体以降、公認審判員は高齢化の一途であり、審判員数も陰りが見えてきた。このため昨年度から県陸協主催による新規対象の審判講習会を年度当初3回開催することにした。初年度は前年度に比較して57人増加。この事業を最低3カ年は継続して、全国平均の770人体制を目指したい。また同時に、進級の助長を図りながら、若手を中心に主任級となる審判員を複数養成したい考えた。

つぎに中心選手となるタレント発掘の一環として、普及部が中心となり、「夢にダッシュ! みやざきストリートダッシュ王決定戦」を昨年に引き続き開催する。これは夏休み期間中、「まつり宮崎」の特設会場内に設置した人工芝のコース上で小学生を対象に30mダッシュを競うもの。昨年、この事業は大いに盛り上がりを見せ、児童にとって、陸上競技への興味を抱かせるものとなった。

最終的には、何と言っても競技力の向上であり、いかに上位争いに食い込むことができるかが鍵である。近年、強化スタッフの努力もあり安定した得点を挙げることができるようになってきた。特に年間を通して跳躍、投てき部門はクリニックを開催し、その成果が如実に表れてきている。

普及から強化への連携、そして小中高校の一貫した指導体制を強固に築きながら10年後を笑顔で迎えたい。(文責:総務部長 川内聖一)

JAAF
OKINAWA

一般社団法人沖縄陸上競技協会

〒900-0026 沖縄県那覇市奥武山51-2
沖縄県体協スポーツ会館3階306号
TEL.098-996-2881 FAX.098-996-2882
<http://www.jaaf-okinawa.jp/>

平成27年度は、インターハイや国体で活躍した走幅跳の津波響樹選手が、世界ユース選手権に日本代表として出場したのをはじめ、県新記録5個、県高校新記録2個、県中学新記録6個を樹立するなど一定の成果を取めました。そのような中、本県で初めて開催された「第70回九州陸上競技選手権大会」等、年度当初に計画した事業は、右代啓祐選手を筆頭に多くのトップアスリートが参加した3月12日の「第20回春季記録会」をもって盛会裏に終了することができました。春季記録会は、本格的なシーズンを目前に、アウトドアで開催される日本一早い記録会として重視され、飛躍を目指す県外からの参加者が年々増えています。うれしい限りです。

さて、平成31年度は南九州4県で全国高校総体があり、陸上競技大会の沖縄県開催が決定しました。今後、高体連陸上専門部や関係機関と連携し、大会の成功に向けて鋭意準備を進めて参ります。

また、本協会は平成28年4月1日をもって「一般社団法人沖縄陸上競技協会」としてあらたな一歩を踏み出しました。これを機に、オリンピック選手の育成を大きな目標としながら、これまで以上に陸上競技の普及・振興と、県民の期待に添えるよう競技力の向上を図るために、全力を持って努力して参ります。

JAAF
KAGOSHIMA

一般財団法人鹿児島陸上競技協会

〒890-0062 鹿児島市与次郎2-2-2 鴨池陸上競技場内
TEL.099-259-6053 FAX.099-299-6054
<http://www3.synapse.ne.jp/karikupage/>

新緑の季節を迎え、本格的なトラックシーズンとなりましたが、当協会にとって本年は、協会設立70年を迎える節目の年となります。現在、総務部を中心いくつかの事業を実施あるいは企画中です。その1つとして、当協会旗の刷新を図るべくシンボルマークの募集を実施しました。昨年暮れより本年2月中旬までの募集期間中に400件を超える作品の応募があり、2回にわたる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、入選5点、学校賞2校を選出しました。なお最優秀作品については当協会のシンボルマークとして5月に公表予定です。今後は11月5日、設立70周年記念式典を開催し、記念講演や功労者表彰を実施予定であるとともに、登録審判員全員に対して審判服を提供するなど当協会のこれまでの歴史を振り返りつつ、今後のさらなる発展に向けて邁進していければと考えております。

一方、4年後の2020年には東京オリンピックが開催されますが、その年の秋には本県において国民体育大会が開催されます。現在、4年後へ向けて徐々にその機運も高まりつつありますが、本年は、九州陸上競技選手権大会や九州中学校陸上競技大会等、地区レベルの競技会を数年ぶりに開催し、審判員数の増加や審判体制の確立を目指すとともに、審判技術の向上と活性化を図る予定です。特に、審判員の高齢化は、本県のみならず他県においてもみられる傾向であると推察されますが、ベテラン審判員の卓越した審判技術を取り込みながら、それらの技術を若手審判員へ伝達し、育成していくことが急務となっています。(文責:総務部長 大村一光)

事務局からのお知らせ

◆◆今年の日本陸上競技選手権大会は愛知で開催します！◆◆



今夏開催の第31回オリンピック競技大会（2016 / リオデジャネイロ）の代表選手選考競技会を兼ねて開催する第100回日本陸上競技選手権大会。今年の日本選手権の舞台は、愛知、パロマ瑞穂スタジアム！

選手達の熱戦に是非、競技場でご声援をお願い致します。
大会公式WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/jch/100/>

◆◆陸上競技ルールブック2016年度版を、4月より全国の書店、ネット書店で販売開始しました。◆◆

陸上競技関係者や愛好家のための2016年度版ルールブックの発売を開始しました。

修改正のあった国際及び日本国内陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック。

お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからもご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合：025-780-1231（ベースボール・マガジン社 受注センター）

※受付時間 月曜日～金曜日 10：00～12：00、13：00～16：00（祝祭日を除く）

ホームページからご注文の場合：ベースボール・マガジン社のウェブサイトへ。

<http://bookcart.sportsclick.jp>



◆◆陸連時報を本連盟公式WEBサイトで公開しています！◆◆

2013年1月号から陸連時報を本連盟公式WEBサイトで公開しています。

アドレスは、<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/jihou.html> です。

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘

◇時報編集担当

繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>